



Human's
check Point

躍進の鍵となる ポテンシャル

□発泡スチロール成形を主体に、40年以上もの歩みを続けてきた『大和化学工業』。緩衝材や産業トレー、機械部品など、各種成形を手掛ける他、様々な加工技術を駆使して取引先の望みに十二分に応えてきた。そして、その積み重ねの上に築かれたのが、販売実績。今では300社近い取引先を有し、新規取引の依頼も次々と舞い込んでいるのだとか。ただ、製造業を取り巻く状況が厳しさを増すご時世。それでも同社の勢いが止まらないのはなぜだろうか。

□片居木社長はこう話す。「お客様の注文には、“創意工夫”と“熱意”で対応している」と。実際にどういうことかと言うと、まず同社では営業に社長本人が向く。そして、社長は訪問先の担当者の話にじっくり耳を傾け、何を求めているのかを肌で感じるのだという。もちろん、ただ聞き役に徹するだけではない。プロとして自らが抱えるアイデアやノウハウを総動員し、より希望にマッチした提案を会話に交えていく。そうして行き着いた製品案は理想通り、もしくはそれを超えるものとなって納品されることになる。そうした製品を常に生み出すポテンシャル——それが、『大和化学工業』の推進力となっているのだ。

いただいている企業は増えていますし、大手企業さんとの新たな付き合いも始まっています。
大沢 優秀な営業マンが揃つておられるわけですね。
片居木 実は、営業担当は私だけなんです。製造現場での経験も積んでいますから、お客様との打ち合わせの時に専門的なアドバイスができる。製品をお客様に販売するということは、本人自身がものづくりの経験をせず、現場を知ることせずにして安易な回答や販売はできない、という考えを持っています。また決定権も持つていているためスピード一発で決済ができます。

大沢 対外的にも社内的にも、社長は人を大切にされているように感じます。
片居木 お客様と共に成長し、共に長く存続できる企業でありたいと考えているんです。直販方式を探っている今、当社は価格ではなく信用で依頼をいただいてるやうなもの。長い付き合いになるお客様も多く、義理人情を感じているんです。それは協力会社も同様です。常に当社と関わりのある人たちを尊重し、無理を聞いてもらつ

「大和化学工業」の二代目として、埼玉県所沢市に生まれる。学業修了後、発泡スチロール成形機械メーカーに入社。3年間の勤務を経て、家業である「大和化学工業」へ。製造現場で10年、現場と営業を掛け持ちして5年の経験を積み、代表取締役に就任。現在はもうづくりの原点を大切にしながら、末永く存続できる企業経営の在り方を追求している。

代表取締役
Takuya Katai

片居木 拓也



片居木 拓也 | 代表取締役

対談
interview

大沢 逸美 | 女優

1970年の創業以来、各種発泡スチロール製品の製造・販売を手掛ける『大和化学工業』。成形やカット、貼り合せなど、多彩な加工技術を駆使し、ハイクオリティな製品を生み出し続けてきた。取引先から選ばれる企業となるため、「安定供給」「安定品質」「納期対応」をモットーに、確かな足取りで歴史を紡いでいる。

堅固な信頼と豊富な実績により、選ばれる企業を目指す

大沢 「大和化学工業」さんは、お父様がご創業されたと伺っています。
片居木 おっしゃる通り、父が1970年に創業しました。元々、大手自動車メーカーに勤務していたのですが、脱サラして全くの異業種である発泡スチロールの成形・製造・販売業をスタートしたんです。掘つ立て小屋のような作業場が原点で、父はそれから少しづつ会社としての基礎を固めました。当初は下請けとしての依頼ばかりでしたが、自社製品の直販方式へと転換。それが、企業としての大きな転機になりましたね。また、社内コストも徹底的に見直し、無駄のないシビアな経営方針を探ってきたんです。そうして、企業としての磐石の基礎を築いてくれた父から私が経営を引き継ぎ、現在に至っています。

大沢 いつ、代替わりされたのでしょうか?
片居木 発泡スチロールの成形機械メーカー勤務を経て当社に入り、製造現場で10年、現場と営業を掛け持ちして5年経験を積んだ後、代替わりしました。私も父と同じ様、無駄のない経営方針を踏襲していますが、効率化を進める上で必要な投資には積極的ですね。常に時代に先んじているよう手を打っています。そして、家業を継ぐ中で最も大切にしてきたのは、創立者の精神と社風を継承し、守り継いでいくこと。これだけは貫いていかなければならぬこと、肝に銘じていますね。やはり、企業としての根底は変わってはいけないと思っていますから。お陰様で、先代のころから当社の社風は眞面目で勤勉。従業員全員が誠心誠意業務に臨んでくれています。

大沢 社長のお言葉からは、優秀な人材が揃っていることが窺えます。
片居木 有り難い限りです。私としては、会社を支えているという自覚を持てない人は必要としませんが、幸い当社にはそういう人は一人たりともいません。彼らがいたった人は、一人たりともいません。彼らが優れた製品を生み出してくれているからこそ、企業として存続していくのです。しかし、社員は大切にしていかなければなりませんね。製造業界は今厳しい状況ですが、できるだけ皆の頑張りに応えられるよう、努めています。

大沢 確かに、製造業界は生産拠点が海外に移るなど、混迷を極めていますよね。
片居木 ええ、その通りですね。それに、発泡スチロール業界は依然として古い体质が残っております。しかもあります。ただ、当社は先ほどお話しした通り、すべての取引で直販方式を採っているので、そういうものは無縁です。現在も、直にお取引

大沢 逸美 (女優)

guest comment



「『大和化学工業』さんでは、お一人おひとりが社員としての自覚を強く持つておられ、それぞれの持ち場で奮闘していらっしゃること。片居木社長からお話を伺う中で、ふと“企業は人なり”という言葉が頭に浮かびましたね。そうした社風があつてこそ、全社一丸となって飛躍していくのでしょう。これからも志を一つにして、頑張っていって下さい」